

[報告]

看護師を対象とした招集型輸血セミナーの開催について

東京都赤十字血液センター

郡司憲一, 廣木かほり, 飴谷利江子, 西谷祐三子, 染谷由美子, 西田一雄, 加藤恒生

Convocation type blood transfusion seminar
for medical hospital nurses

Tokyo Metropolitan Red Cross Blood Center

Kenichi Gunji, Kaori Hiroki, Rieko Ametani, Yumiko Nishitani, Yumiko Someya,
Kazuo Nishida and Tsuneo Kato

抄 録

学術部門では安全で適正な輸血医療の推進を目的に医療機関へ訪問して輸血説明会を開催している。東京都では約800の医療機関へ輸血用血液製剤を供給しているが、多くは中小規模施設である。すべての施設へ訪問して個別に輸血説明会を開催することは困難である。今般、看護師を対象とした「招集型」の輸血セミナーを東京都赤十字血液センター学術課、採血課、供給課で連携して開催した。輸血セミナーでは献血から供給までの流れや輸血用血液製剤の取り扱いおよび実技を含む輸血セットの取り扱い、自己血採血について講演を行った。その結果、輸血手順の確認に有効であり、セミナー受講後のアンケート調査では高い評価を得た。また中小規模医療機関から広く参加を募ったことから、新しい輸血説明会の機会を提供することができたと考える。招集型輸血セミナーを継続することで、輸血医療の安全性向上に寄与することが期待される。

Key words: convocation type, blood transfusion seminar, nurse

【はじめに】

日本赤十字社の地域センターに位置する学術部門ではGVP省令に基づき輸血副作用の収集などの安全管理業務に従事している。同時に医療機関に対して輸血に関する情報提供を行い、安全で適正な輸血医療の推進を目的とする活動を行っている。活動のひとつである医療機関における輸血説明会は、臨床現場に効率的に情報提供を行う上で有用であり、院内状況把握も可能であることから積極的に実施することが本部の活動目標として挙げられている。

東京都赤十字血液センター（以下、東京都センター）では平成29年度に都内59の医療機関を個別に訪問し、延べ73回の輸血説明会を実施してきた。一方、東京都内で輸血用血液製剤の供給実績がある医療機関は約800施設あり、多くは500床未満の中小規模施設¹⁾である。輸血用血液製剤の使用量が多く、輸血管理体制が整備された500床以上の大規模医療機関¹⁾と比較し、中小規模医療機関、とくに100床未満の小規模医療機関では輸血経験が乏しく、輸血管理体制に課題が残っている²⁾。しかしながら、学術部門の人員に限りが

あり、すべての医療機関を定期的に訪問することは難しい状況である。これらの現状の解決策として輸血用血液製剤を扱う中小規模医療機関の看護師を対象として、招集型輸血セミナーを東京都センターの学術課、採血課、供給課で連携して開催したので報告する。

【方 法】

当セミナーの参加者数に関しては開催場所を東京都センター研修室としたため、1施設1名で100名を限度とした。対象医療機関は、平成28年度に赤血球製剤の供給実績があった789施設のうち、年間24単位以上1,000単位未満の供給実績があった400施設(一般病床数は500床未満)を対象として案内文(図1)を送付し、FAXにより参加受付を行った。開催日時は看護師が時間を取りやすいと考えた土曜日の午後の2時間とした。プログラムの「輸血用血液製剤の取り扱い」および「実技を含む輸血セットの取り扱いについて」は学術

課、「献血から供給までの流れ」は供給課、「自己血採血について」は日本自己血輸血学会認定の自己血輸血看護師が担当した。実技では事前に模擬血液バックを作成し(図2)、輸血セットとの接続を体験した。また、セミナーの効果確認のためにプログラム終了後にアンケート調査を行うとともに、個別で質問を受ける時間と会場を用意した。さらにオブザーバーとして日本輸血・細胞治療学会認定の臨床輸血看護師が1名参加した。

【結 果】

事前受付を行った108施設108名(案内送付施設の27%)の参加があった(図3)。参加施設における平成29年度の赤血球製剤供給実績平均値は427単位(中央値は96単位)であった。血漿製剤供給実績は43施設で平均値は119単位、血小板製剤供給実績は46施設で平均値は518単位であった。病床数の平均値は106床(中央値は71床)であり、11施設がクリニックであった。自己血採血を行っていたのは35施設(32%)であった。参加施設で過去に個別の輸血説明会を実施した履歴があったのは19施設であり、参加施設の82%が当セミナーで初めて血液センターによる輸血説明会を受けていた。

セミナー受講後のアンケート調査(図4)では、開催日時、講演時間が適当であったとの回答はそれぞれ91%、98%を占めていた。講演内容については「大変参考になった」、「参考になった」を合

参加費無料

看護師対象 輸血に関する基礎セミナー

-輸血用血液製剤の取り扱いと自己血採血について-

日時

平成29年10月14日(土) 14:00~16:00
(13:30 開場)

会場

東京都赤十字血液センター 大江戸線 若松河田駅 河田口徒歩1分
(東京都新宿区若松町12-2)

プログラム


講演① 輸血用血液製剤が医療機関に届くまで
献血から供給までの流れをご紹介します。

講演② 輸血用血液製剤の取り扱い
製剤の温度管理から外観確認のポイントなど知識の再確認に最適。


実技：輸血セットの取り扱いについて
模擬血液と輸血セットを実際に接続してみましょう。

講演③ 自己血採血について
プロフェッショナルな採血課より採血時のポイントをご紹介します。

東京都赤十字血液センター (研修室) 東京都新宿区若松町12-2
 交通：『若松河田駅』(大江戸線) 河田口徒歩1分



お問い合わせ先



主催：東京都赤十字血液センター
事務局 東京都赤十字血液センター 事務局 学術課
TEL: 03-5272-3519 FAX: 03-5272-3575

図1 輸血セミナー案内文



図2 模擬血液バック作成



図3 輸血セミナー風景

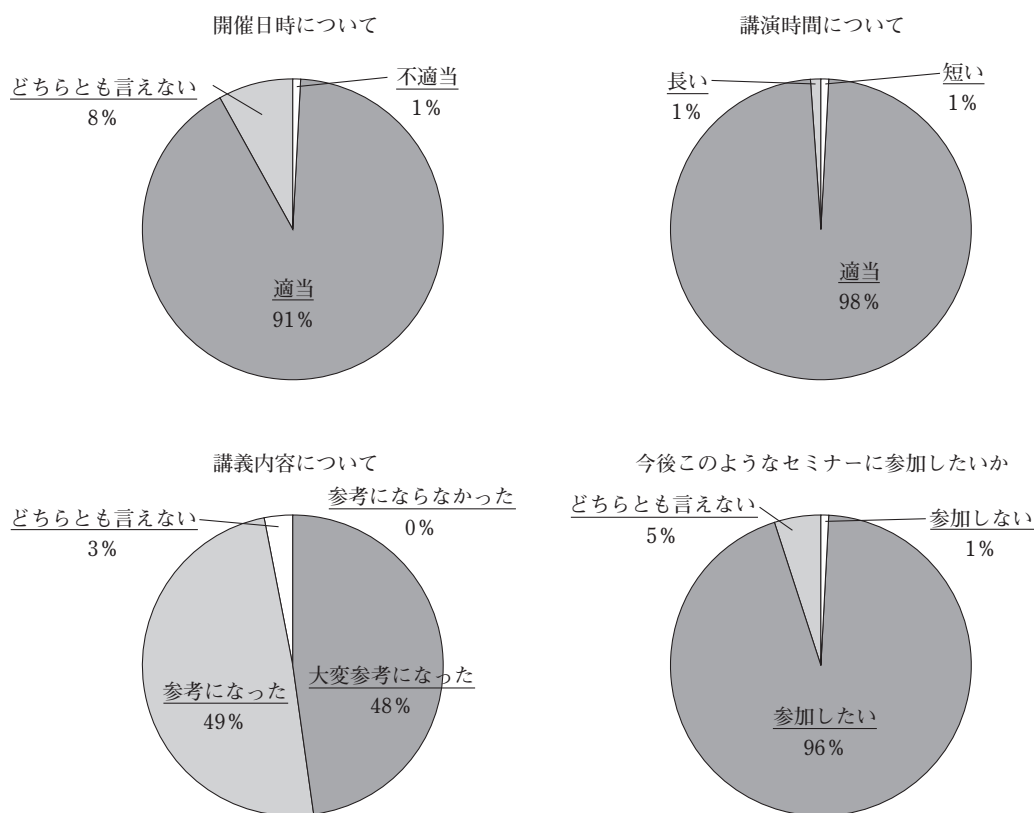


図4 アンケート調査結果(回収率100%)

わせると97%の回答であり、参加した看護師の96%が今後も同様のセミナーへの参加を希望していた。参加者の主な意見としては、「30年以上

看護師をしているが初めて知る内容が多く、誤った輸血手順の見直しができた。」「血液センターから届けられる血液は安全であるとの認識であっ

たが、細菌感染等のリスクがあり、外観確認の重要性を改めて認識した。」「自己血採血に関する疑問は、当院で聞ける人がおらず、学会認定の看護師に相談できる良い機会となった。」などのコメントがあった。

輸血の臨床に関する質問では、学会認定・臨床輸血看護師が回答する場面も見られ、参加者同士で意見交換をする場としても活用されていた。プログラム終了後、個別の質疑応答では参加者から多くの質問が寄せられた。

【考 察】

これまで日本における輸血医療は、比較的設備の整った医療機関にて行われてきた。昨今、国の地域医療構想の進展に伴い、小規模医療機関や在宅での輸血医療が増えてきている²⁾。輸血用血液製剤を使用する現場が多様化する中、日本赤十字社には輸血医療の安全性と適正使用を広く伝えることが求められている。

今般、看護師を対象とした招集型輸血セミナーを東京都センターとして初めて開催した。中小規模医療機関から広く参加を募ったことから、普段訪問できていない医療機関に対して新しい輸血説明会の機会を提供することができたと考える。訪問型の輸血説明会は年間で約60施設の医療機関が対象であったが、招集型であれば一度に100施設を超える医療機関に対して情報提供を行うことができる。とくに輸血の機会が少ないため輸血医療の実施に不安を抱える中小規模医療機関では、輸血時注意点の振り返りや輸血セットを用いた実技を通して輸血手順の見直しに寄与することが確認できた。また受講内容を各医療機関に戻り伝達していきたいとの声も多く寄せられ、参加者のみならず参加施設全体のスキルアップにつながることを示唆された。さらに質問時間を設けたことで、

各医療機関での輸血医療に対する問題点や課題が寄せられ、招集型の輸血説明会においても参加施設の院内状況の把握が可能であり、さらには参加者間での課題共有にも有効であることが確認できた。今後は事前に質問事項や輸血実施時の課題を抽出して、改善策を提示するなどの取り組みを検討したい。

当セミナーは学術部門単独ではなく、供給部門と採血部門の協力を得て開催できた。このため実務的な質問への対応もその場で適宜適切に回答することが可能であった。今回のセミナー開催はもとより、日頃から他部門の連携による活動は有効であると考ええる。

訪問型の輸血説明会でも共通するが、セミナー受講後の効果確認として参加施設に対して定期的なモニタリングを行い、各施設での輸血管理体制の改善状況や新たな課題の抽出など、声を集める工夫を取り入れたい。今回のセミナーでは基本的な輸血用血液製剤の取り扱いを中心として講演を行ったが、輸血副作用や輸血後感染症など「輸血のリスク」について詳しく知りたいとの声もあり、幅広い講演内容について検討が必要であると考ええる。また当セミナーでは対象としなかった赤血球製剤の年間供給実績が24単位未満の医療機関について、今回の参加者と同様、輸血医療に課題があることが予想されることから、受入体制の強化など今後の開催要項を改善したい。

今回の結果を踏まえ、中小規模医療機関より広く参加を促せる「招集型」と、多様な質問へ回答が可能となる「他部門との連携」の2つのキーワードを取り入れた輸血セミナーを今後も継続して、従来型個別訪問での輸血説明会と合わせて医療機関における輸血医療の安全性向上と適正使用推進の一助としていきたい。

文 献

- 1) 日本輸血・細胞治療学会 輸血業務に関する総合的調査実施小委員会：「平成29年度血液製剤使用実態基本調査」

- 2) 日本輸血・細胞治療学会 輸血業務に関する総合的調査実施小委員会：「小規模医療機関(100床未満)における輸血療法の検討」